



ICT教育におけるモデル校事業の検証方針について

小牧市教育委員会は、「小牧市学校教育 ICT 推進計画（平成 31 年 2 月策定）」に基づき、「時代を切り拓くこども」の育成に向けて、次の方針に沿って、モデル校において ICT 機器の活用方法の実践検証を行います。

基本的な考え方

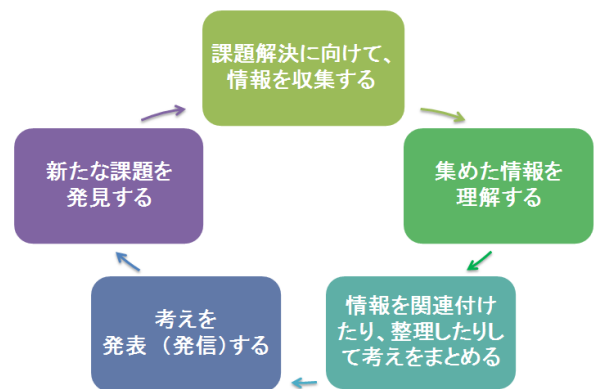
1. 授業において、従来のノートや鉛筆等と同様に一つの道具・手段として、ICT 機器を効果的な場面で部分的に活用していきます。
2. 試行錯誤を繰り返す導入初期段階においては、機器やネットワークのトラブル、必ずしも効果的でない活用、機器の管理面の問題など、様々な問題・課題が発生することが想定されます。

モデル校において、こうした問題発生等を恐れず積極的に ICT 機器の活用に挑戦する中で、発生した問題の原因を追究、改善・防止策を検討していきます。試行錯誤を繰り返し、創意工夫により課題解決に努め、各種機器及びソフトウェアの使い勝手等の情報を幅広く収集・蓄積します。蓄積した情報は、教育委員会がとりまとめて全校で共有し、同様の問題の発生防止やより効果的な活用方法の参考情報とします。

3. 活用にあたっては、ICT 機器を活用することが目的とならないように、次の 3 段階のスケジュールで目標に向かって、教員及びこどもの操作スキルに応じた活用を進めていきます。
 - ・ 第 1 段階（H31）機器等の操作に慣れ、日常的な活用を目指す段階
 - ・ 第 2 段階（H32）授業での効果的な活用を目指す段階
 - ・ 第 3 段階（H33）引き続き授業での活用を進めながら、第 1・2 段階の実践結果を検証し、「第 2 次小牧市学校教育 ICT 推進計画」を策定する段階

① タブレット型 PC の活用検証（推進計画 25 ページ、第 4 章の 2①関係）

- ・ 一斉学習・個別学習・協働学習といった学習場面で効果的な活用方法を試行錯誤しながら、こどもたちの学年や各教科における学習のねらいに応じて授業において積極的にタブレット型 PC を活用していきます。
- ・ こどもの学習プロセスの中で、目的に合わせてタブレット型 PC を使い分け、効果的に活用し、課題解決する力を育てることを目指します。



▲こどもの学習プロセス

② ICT機器の利用環境検証（推進計画 26 ページ、第4章の3①関係）

- ・モデル校において、校内LAN回線の負荷状況の調査・分析を行います。その結果を活用し、各学校のLANや学校とセンターサーバ間の回線を再整備し、各学校内で多数のタブレット型PCを同時かつ快適に利用できる学習環境の構築を目指します。

③ 教育ソフトウェア・コンテンツの検証（推進計画 27 ページ、第4章の4①関係）

- ・既存のデジタル教科書、授業支援ツール、ドリル教材、情報モラル教材及びモデル校に新たに導入する各種ソフトウェアの機能を積極的に活用し、各ソフトウェアの有効な機能や使い勝手等の情報を収集・蓄積します。蓄積した情報から、各ソフトウェアの機能や効果等を比較し、全校導入するソフトウェアを検証していきます。

参考1 事業の詳細

① 事業期間

平成31～33年度（3年間）※機器の導入は平成31年9月予定

② モデル校・整備機器

次のモデル校に、3クラスに1クラス分程度のタブレット型PCを整備し、1人1台のタブレット型PCを使用できる学習環境を整備します。

タブレット型PC台数（収納保管庫台数）	
・味岡小学校：280台（7台）	・大城小学校：137台（4台）
・味岡中学校：290台（8台）	・光ヶ丘中学校：85台（3台）

※タブレット型PC以外にも、電子黒板機能付きプロジェクタ及びスクリーン、実物投影機、指導者用デジタル教科書、各種ソフトウェア等のICT環境が整備されています。

③ ICT支援員（別事業）

平成31年8月から、ICT機器に見識を持つ支援員が学校を巡回し、機器の操作に対する助言や活用事例の紹介等を行うなど、ICT教育の推進を支援します。

（平成31年度の巡回回数：モデル校 原則月4回、その他小学校 原則月2回）

参考2 「小牧市学校教育ICT推進計画」の目指す姿（抜粋）

時代を切り拓くこども～ICTで伸ばすこどもの力～

1. 情報を収集する力
2. 情報を読み解く力
3. 論理的・創造的に思考する力
4. 課題を発見・解決し、新たな価値を創造する力
5. よりよい社会や人生のあり方について考え、学んだことを生かそうとする力